

4 令和元年度学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係 者評価	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習 指導	<p>(1)教育課程研究開発校として新科目「公共」の教育課程研究開発に取り組む。</p> <p>(2)生徒の自立心を育てるとともに、社会参加の意欲を高め、問題解決能力を身につける教育課程を編成する。</p>	<p>①-1 再編・統合を見据えた教育課程の改善と教育活動の充実を図る。</p> <p>①-2 キャリア・シチズンシップ教育を基軸とした教育課程の研究開発を組織的に進め、実践的な取組の充実と県立学校への普及啓発を図る。</p> <p>② 主体的・対話的で深い学びの視点から、組織的な授業改善を推進する。</p>	<p>①-1 教育課程編成の改善を実施して学力の底上げを図る。</p> <p>①-2 全ての教科でキャリア・シチズンシップ教育を基軸とした実践的な取組を実施する。</p> <p>②-1 多様な学びの機会を組織的・計画的に実施し、基礎・基本の定着による学力の向上を図る。</p> <p>②-2 授業の質の充実を図る。また、課題発見・課題解決力の育成を図る。</p>	<p>①-1 教育課程編成を改善できたか。学力の底上げが図られたか。</p> <p>①-2 キャリア・シチズンシップ教育を基軸とした実践的な取組を企画・計画できたか。</p> <p>②-1 生徒による授業評価の全項目の肯定的回答がそれぞれ6割以上となったか。</p> <p>②-2 授業での発問の工夫や生徒の活動・発表の場が増えるなど生徒の主体的な学ぶ姿勢や態度が向上したか。</p>	<p>① 公開授業および授業研究会を5回開催し、教員の授業スキル向上と学びのプロセスを意識した授業改善を進めた結果、生徒の変化に対応した授業づくりが進んだ。（主体的・対話的で深い学びに関する授業改善取組状況に係るアンケートでは20項目中、16項目で肯定的意見が5割を超えた。）</p> <p>② 授業の質の確保を図るため、ICT機器やクロームブックを使った授業展開により、授業の内容が充実し、生徒の理解が進んだ。（魅力と特色ある県立高校づくりの生徒アンケートでは中学の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることが出来たとする生徒の割合が8割を超えた。）</p>	<p>① 令和5年度の再編・統合を見据えた教育課程編成の改善に取り組み、また、新科目「公共」による教育課程開発研究校としての取組を充実させた結果、カリキュラム・マネジメントに組織的に取り組むことができた。今後、授業研究会や授業改善のための相互授業参観を日常的に行うとともに、研究協議や助言者の派遣などの充実を図る必要がある。</p> <p>② 教員の授業スキル向上と様々な授業メソッドの開発により、授業の質の向上に繋げたい。また、ICT機器の使い方についても引き続き校内研修による充実を図りたい。</p>	<p>○落ち着いた授業が展開出来る。このまま学力向上につなげたい。</p> <p>○瀬谷西ゼミや補修の充実による幅広い生徒のニーズに対応してほしい。</p>	<p>① キャリア・シチズンシップ教育を基軸とした実践的な教育活動により、様々な生徒の進路実現を達成することができた。（H29年度には5割に対して令和元年度では7割の生徒が高校生活を振り返って本校に満足していると答えている。）</p> <p>② 生徒による授業評価の全ての教科で、授業での発問の工夫や生徒の活動や発表の場が増えたと回答しており、取組が進んでいる。（学校目標における自己の取組における成果では7割を超える職員が取組がすすんでいると回答した。）</p>	<p>① 新科目「公共」による教育課程開発研究校としての取組を充実させ、全職員による授業改善を進めていくことが必要。</p> <p>② 主体的・対話的で深い学びに係る授業改善を加速させ、生徒が自らが主体的に学ぶ姿勢や態度が育成されるよう授業メソッドの開発が必要である。</p>
2 生徒 指導・ 支援	<p>(1)キャリア教育の視点から、生徒の規範意識の醸成に引き続き取り組む。</p> <p>(2)支援の必要な生徒に対して教育相談体制を確立する。</p> <p>(3)自己肯定感の向上に繋がる生徒支援方法を模索し、実現化する。</p>	<p>① 身だしなみ、挨拶、時間を守る、身の回りの整理整頓を励行した生活態度の育成を図る。</p> <p>② 職員間で生徒の情報交換と支援方策の共有化を進め、生徒一人ひとりに寄り添う指導・支援体制の構築を図る。</p> <p>③ 部活動、行事や生徒会活動など生徒の活動の場を拡大する。</p> <p>④ 生徒会や委員会など生徒自らの取組を全職員が支援し、安全安心な学校環境の整備を図る。</p>	<p>① 頭髪、服装指導、チャイム前着席や携帯電話等電子機器の使用制限など、マナーアップ向上と生徒のモラル向上に取り組む。</p> <p>②-1 学校いじめ防止基本方針に基づき、未然防止のための取組や再発を防止する取組を推進する。</p> <p>②-2 教育相談の連絡体制と支援体制の充実を図り、教育相談等の機能の活用・連携を通して生徒支援を充実する。</p> <p>③ 部活動・行事等と学習を両立し、自他を尊重し、豊かな経験を得ることができるよう指導・支援する。</p> <p>④ 生徒自らが考えて行動できる指導・支援を通して自主・自律的な生活態度や姿勢を身につけさせる。</p>	<p>① 生活指導件数を1割減少させることができたか。</p> <p>②-1 学校いじめ防止基本方針に基づく取組(いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくり、定期的なアンケートの実施、校内研修会の実施他)を実施できたか。</p> <p>②-2 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携が進んだか。</p> <p>③ 部活動加入率が前年を上回ったか。また、生徒の輝く姿を支援できたか。</p> <p>④ 生徒会や委員会活動の取組を通して、生徒会行事や学校行事に対する生徒の満足度が前年度と比較して上がったか。</p>	<p>① 学年を中心とした情報の共有化や各学年間との指導の平準化を進め、生活指導に関する申し合わせを学年所属職員相互に把握するよう体制づくりを工夫した。</p> <p>② 定期や臨時のいじめアンケートを実施し、日常的ないじめ把握に努めるとともに、指導が必要な生徒については積極的にケース会議で話し合い、外部機関との連携を実施した。</p> <p>③ 部活動の加入率は57.3%と前年度比でも横ばいであった。27年度61.6%から年々減少傾向にある。一方、部活動の活性化を目指し、陸上競技部・軽音楽部・美術部・演劇部が関東大会等に出場する等、どの部活動も目覚ましい活躍をした。</p> <p>④ 魅力と特色ある県立高校づくりの生徒アンケートでは修学旅行や文化祭、体育祭など、学校行事や生徒会活動で充実した活動ができたとする生徒の割合が8割を超えた。また、部活動充実した活動ができたとする生徒の割合は6割に留まった。</p>	<p>① 再登校指導による対象生徒は大幅に減少した。また、遅刻指導を徹底した結果、昨年度に比べ大きく減少した。今後も全職員が統一した指導方針の下、協力して指導することが必要である。</p> <p>② いじめ案件については、迅速にケース会議を開催し、初期段階で対応することができた。</p> <p>③ 部活動活性化のために、今まで以上に顧問をサポートする外部インストラクターを活用するなど、環境を整備する。</p> <p>④ 教員の生徒対応の負担を減らすには、教員の増員が必要である。また、全職員で関わっているが、中核となる生徒活動支援グループの人数が少ないため、グループ人数の動員が必要である。</p>	<p>○下校中の生徒のマナーアップに努めてほしい。</p> <p>○携帯電話やスマートフォンについて指導が大変だと思うが、生徒同士がコミュニケーション能力を向上できるような機会を作してほしい。</p>	<p>① 頭髪・遅刻による再登校指導件数は、前年度より93件減となり、特別指導件数も前年度より大幅に減となった。</p> <p>② スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携した特別指導を実施し、協力体制や支援体制の充実が図られたと回答した職員は86.1%となった。</p> <p>③ 部活動加入率が5割台に留まった。</p> <p>④ 部活動で全国大会や関東大会に出場する部も増え、充実した高校生活を送っている生徒が増えている。</p>	<p>① 学校目標における自己の取組で、生徒の恒常的な支援にあたる職員は7割をこえているが、SNSなど新たな問題行動に対応していくことが必要である。</p> <p>② いじめへの取組は進んでいるものの、生徒アンケートでは、昨年度より問題があると認識している生徒が増えており、今後職員の丁寧な指導や声掛けを強化していく必要がある。</p> <p>③ 部活動の加入促進ができていないと回答している職員は5割にとどまり、部活動の魅力を生徒に広めていく必要がある。</p> <p>④ 生徒が主体となった企画運営を進め、生徒会行事や学校行事に対する生徒の参画意識を高めていく。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係 者評価	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	(1) 在学中のすべての教育活動を、キャリア教育の視点で展開する。 (2) 生徒全員が自分の希望する進路先に進めるよう、入学時から計画的・継続的に指導する。	① キャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を向上させ、生徒一人ひとりの勤労観、職業観が育まれるよう支援する。 ② 日常的な学習習慣を確立させるとともに、学年段階毎に具体的な進路目標を設定させた進路指導・支援を行う。	① 進路実現に必要な社会的・職業的自立心が高められるよう指導・支援するとともに、生徒・保護者への指導・支援を充実させるために、教員のスキルアップ研修の機会を充実する。 ② 生涯に渡って通用する人間形成を目的とした進路計画を企画・運営するとともに、学年進行に応じた段階的指導・支援体制の整備を全教員が協働して取り組む。	①-1 進路目標達成に向け生徒一人ひとりに充実した取組が提供できたか。 ①-2 キャリア教育に係る研修会の充実が図られ、生徒・保護者アンケート項目の肯定的回答が6割以上となったか。 ②-1 生徒一人ひとりのキャリア形成が図られるよう計画的系統的なキャリア教育の充実が図られたか。 ②-2 全職員が協働した取組となったか。生徒・保護者の指導・支援に対する満足度が高まったか。	① 生徒に対する進路の各分野説明会について、上級学校やその分野に精通する方を講師に招き、生徒にとってより効果的な説明会にするとともに教員の進路指導のスキル向上を図った。 ② 進路に関する動向などの情報を教員間で共有することにより、多くの教員が進路指導に関われるような環境づくりをめざした。	① 生徒対応や部活指導、会議等があるため、放課後の教員のスキルアップのための研修会を設定しにくい状況となっている。他の時間を利用する工夫が必要である。 ② 進学や就職等生徒の進路分野が多岐にわたり、様々な入試方法での受験をするためきめ細かな個別指導が必要となる。一部の教員に偏らず全教員が組織的に指導にあたるのが課題である。	○瀬谷西学希望生徒の学力を補強してほしい。	① 適切な進路指導や情報提供ができていないと回答した職員は72.3%となり、前年度を10ポイント以上上回った。 ② キャリアガイダンスと進路ガイダンスについては、生徒の満足度は8割超となり、取組は進んでいると考えられる。	① 生徒の支援の充実と教員の勤務時間をすり合わせる必要があり、働き方改革をふまえて効率的な運用を図る。 ② 進路指導のノウハウを持った教員が不足しており、教員の研修等による教員養成が必須である。
4	地域等との協働	(1) コミュニティスクールを新たに展開することで、更なる地域との連携体制を推進する。 (2) 小中高の縦の連携を深め、地域に根差した教育を展開する。	① 開かれた学校づくりと瀬谷西高校の魅力を活かして迅速な情報発信を推進する。 ② ホームページの更新に努め、魅力的なコンテンツや内容の充実を図る。 ③ 教育資源や外部人材に係る校内外のネットワークの拡大を図り、外部人材の活用や取組内容の充実を図る。 ④ 多様な学びの場の整備と学校間連携等の推進を図る。	① 保護者や地域の方々や他校教員に対する授業公開を進めるとともに、中学生とその保護者への情報発信を学校行事やホームページで行う。 ② ホームページに掲載するコンテンツや内容の充実を進め、タイムリーかつ魅力的なホームページの作成に取り組む。 ③ 学校運営協議会制度に係る課題を整理し評価部会の立ち上げを実施する ④ 三ツ境養護分教室との交流が充実したか。また、地域連携活動や他校種の職員交流を進め、連携や協働を図る。	① ホームページの閲覧者数を前年度比2割アップできたか。 ② ホームページに掲載するコンテンツのリニューアルや新企画の掲載ができたか。 ③ 学校運営協議会制度導入に係る課題を整理し、円滑な企画・運営が図られたか。 ④-1 三ツ境養護学校及び分教室や隣小中学校との職員交流が図られる取組を実施できたか。 ④-2 地域と連携した災害図上訓練などが実施できたか。	① 前年度に引き続き学校説明会のWEBによる予約を導入した結果、各時間帯は予約がいっぱいとなり、電話による対応も軽減することができた。 ② CMSを使った新ホームページを設置したが、更新には時間がかかり、迅速な情報更新には課題がある。 ③ 学校運営協議会の制度導入を無事実施できた。 ④ 三ツ境養護学校分教室との新たな交流の形を考える必要がある。また、全生徒への災害図上訓練を通して震災教育の充実を図った。	① 迅速なホームページの更新ができていないが、人材の育成が課題である。 ② 新たなホームページの作成にあたり、魅力的なコンテンツの検討を行っていく。 ③ 学校運営協議会を活かした学校づくりを図りたい。 ④ 来年度以降、「新しい形での三ツ境養護学校分教室と本校の生徒の交流の場」を設定するために、形態や時期、予算等についての検討を行っていく。また、地域と連携した防災訓練や防災教育を実施していくことが課題である。	○地域の活動にも関心を持たせてほしい。 ○防災拠点として、地域の人たちが入った時のことも考える必要がある。	① ホームページの閲覧数は前年度と横ばいであるが、新たなコンテンツや内容の充実が前年度より増えている。 ② ホームページに掲載するコンテンツや内容の充実が進んでいると回答した職員は3割台だった。 ③ 学校運営協議会制度に係る課題を立上げることができた、と回答する職員は5割台となった。 ④ 三ツ境養護学校分教室との会議を2回実施し、持ちこされていた課題を整理し、両校で情報の共有を図った。	①② 各グループの情報をリニューアルするなど、ホームページの積極的な更新を進めていく。また、ホームページ作成の担当者を増やすなど、研修の機会を設ける必要がある。 ③ 学校運営協議会の評価部会の持ち方について今年度の反省を踏まえて検討を進めていく。 ④ 交流に向けた具体的な案を職員会議で全職員に周知し、具体的な交流を進めていく。
5	学校管理 学校運営	(1) 職員の共通認識を深め、一体となった学校経営を推進する。 (2) 何よりも安全安心に基づく、信頼される学校作りに専念する。	① 職員一人ひとりが自ら「参画」し「協働」する業務意識の向上を図り、業務の見え易く通した業務の標準化、効率・正確性の向上を推進する。 ② 教育公務員としての高い倫理意識や法令遵守を徹底し事故不祥事の未然防止に全力で取り組む。	① 定期的な業務状況の把握に努めるとともに、業務の無駄やムラを無くするための提案や担当業務毎にマニュアルを作成するなど業務処理の効率化と均一化を実施する。 ② 定期的な事故防止研修を行うとともに、日常的な点検・確認を通して、業務の見直しを実施し、適正かつ効率的な事務処理を実施する。	①-1 業務の効率化や能率化に係る業務改善の提案があったか。 ①-2 担当業務のマニュアルの作成や引継書の作成ができたか。 ②-1 定期的な業務に係る日常点検及び事故防止研修が実施できたか。 ②-2 施設・整備の日常的な安全点検を通して迅速な修繕に努められたか。 ②-3 予算・決算、執行、業者選定等が適切に実施できたか。 ②-4 入学者選抜業務に係る事故ゼロを達成できたか。	① 業務の効率化や能率化の視点をもってグループの再編をすすめ、今後の業務改善の推進を図った。 ② 職員会議に際して事故防止研修会を開催し、日常点検チェックシートを作成と活用により、事故防止を図った。本校にとって最後の入学者選抜業務においても事故ゼロを達成することができた。	① 担当業務のマニュアルや引継書の作成を行い、業務処理の効率化と均一化を図り、業務改善につなげていくことが課題である。 ② 広い視野にたった事故防止にむけての意識の啓発をすすめる必要がある。	○地震の際、渡り廊下などがもろいのではないかと心配している。 ○一斉配信の内容は配信前にダブルチェックしてほしい。	① 勤務状況や業務アシスタント活用アンケート調査をふまえて、職場の現状を把握し、業務改善の課題を整理した。 ② 日常点検チェックシートを作成し、職員の意識啓発を進めた。	① さらなる業務の効率化と働き方改革を意識した業務改善を具体的に提起していく必要がある。 ② 日常点検や事故防止研修を充実のあるものにするため、研修内容や研修方法の充実を図る。また、業者選定等適切な資料作成を通して、事故の防止に努めていく必要がある。